

第6学年2組 体育科学習指導案

場所 アリーナ

1 単元名 ソフトバレーボール

2 運動の特性

(1) 一般的特性

ネットを挟んで相対した2つのチームが、ボールを床に落とさずに、定められたルールの中でラリーをして得点を競い合っている楽しむ運動である。

ボールがやわらかいために恐怖心が少なく、技能の低い人でも手軽に楽しむことができるスポーツである。

(2) 子どもから見た特性

- ・ ネットを挟んで、攻守が分かれるため、相手との接触プレーがなく、安心してゲームに参加できる。
- ・ ボールが軽くてやわらかいので恐怖心はないが、正確に打ち返すことは難しい。
- ・ チームで考えた作戦が成功したり、練習の成果が出て得点ができたりした時に喜びを感じることができる。

3 単元目標

【関心・意欲・態度】

- ・ ルールやマナーを守って、ゲームを楽しもうとする。
- ・ 友だちと励まし合ったり、助け合ったりしながら、運動しようとする。
- ・ 自分のめあてに向かって、全力を出して運動しようとする。

【思考・判断】

- ・ 自分にあっためあてを持ち、工夫して練習やゲームをすることができる。
- ・ チームにあった作戦を考え、ゲームに生かすことができる。

【技能】

- ・ レシーブ、サーブ、トスなど基本的な技能を行うことができる。
- ・ 作戦に応じた攻めや守りの動きをすることができる。

4. ひびき合う子ども達をめざすための指導の工夫.

(1) 単元と児童（教師の意図性）

①研究主題と体育の学習

「ひびき合う子ども達」を育てるために自分が大切にしていきたいことの一つに体育の学習がある。というのも、体育は子ども達にとってとても好きな教科の一つであり、学校生活の中で楽しみにしている子も多いこと。また、体育の学習内容は集団での活動を体験できる場、人や物とのかかわりが大きい場として重要な位置を占めていると感じているからである。体育学習を通して心と体のかかわりを深め、お互いのよさを認め合い、ひびき合わせることによって一人一人の持つ個人の力をチームとしての大きな力に、さらにそれらが相重なって学級としてより大きな力にすることができると思う。

体育でいう知的好奇心とは、「特性にふれさせて、その運動が持つ楽しさを味あわせること」と考える。そこで特性にふれさせるための工夫、つまり、場の工夫、ルールの工夫といった手だての一つ一つが、知的好奇心を引き出す工夫となると考えた。

②めあて学習

集団で活動するためには、目標（めあて）を共通に持たせることが必要である。そして、チームとしてその目標に向かって活動する上では、一人一人がお互いの存在を認めていなくてはうまくいかない。特にボール運動においては、チームとして機能させるためにそれぞれを認め合い、同時に高め合うことはチームとしての目標を達成させる上で必要不可欠なことであると考え。チームの仲間の優れた技術を伝え合ったり、教え合ったりすることによって個人やチームの力が向上し、目標に近づくことができると思われる。

③話し合い活動

かかわりを大切にする上で話し合い活動の時間を重視していきたい。体育における話し合いは、特にチームスポーツでの作戦面で重要視される。みんなで意見を出し合ってよりよい考えを導き出せるように、方法や意義を教えていきたい。また、友達の良いところ見つけ、お互いに認め合うことによって、やる気が出たり、自分も頑張ろうという気になるなど精神面でのプラスにつながってくると思われる。実際の活動時間・運動量とのバランスもあるが1時間の中で適所に話し合いの時間を計画し、その時間が有効に使えるようにしていきたい。また、話し合いの結果をまとめ、次に生かす意味でも学習カードの有効活用も大切にする。

④単元の進め方

単元の進め方としては、経験の少なさを考慮して、時間計画の前半には、バレーボール型の球技の楽しさを味わわせられるように単純なルールでゲームを多く行い、一人一人が意欲的に活動できるようにしていきたい。そのためにも、チームとしてというより、個人のレベルの向上も図っていけるように指導していきたい。具体的には、サーブ、レシーブ、トスといった基本技術を一斉指導したり、個人の能力に応じて個人指導したりしていく必要性を感じている。その後、楽しみながらもチームが勝てるようにめあてを考えたり、作戦を工夫したりといったチームとしてバレーボール型のスポーツの楽しさを追求していけるようにしたい。ルールでの特徴として「1回で相手に返したら反則」ということが、本来のバレーボール（大人がやる種目としてのバレーボール）と大きく異なっている。これは、私自身の経験から1回で返してよいことにすると、ネットをはさんではねつきのような状態が続き、チームとして機能しなくなったり、バレーボールの楽しさを十分に味わえなかったりすることを懸念している（特性にふれさせにくい）。もちろん、このことを始め、ルールについては子ども達と一緒に作っていくことを大切にしていきたい。そうすることによってより主体的な学習、自ら意欲的に取り組む学習になると思われる。

⑤かかわり

最後に、子ども同士のかかわりについてであるが、サッカーやバスケットなどの球技に比べて、相手が同じコートにいない分、いいプレー、悪いプレーが個人として目立ってしまう。そこで、お互いに協力しながら、支え合ってプレーすることや失敗したときの声かけや励まし合いが大切なことを必要に応じて指導していきたい。そして、かかわりを大切にすることによって、みんなが楽しくゲームに取り組めることを経験させ、またこの仲間と一緒にやりたいという意欲がわくようなチーム作りを目指せるようにしていきたい。

5 学習のねらいと道すじ

(1) ねらい

みんなで力を合わせて、ルールを工夫したり、チームにあった作戦を立てたりして、ゲームを楽しむ。

(2) 道すじ

ねらい1・・・ ルールやチームの仲間になれ、協力して、今持っている力で、バレーボール型のゲームを楽しむ。

ねらい2・・・ チームにあった作戦を考えたり、練習したりしてチーム力を高め、力のあったチームに挑戦してゲームを楽しむ。

ねらい3・・・ まとめのトーナメント戦を楽しむ。

6 指導計画（8時間）

本時								
	1	2	3	4	⑤	6	7	8
1 0	はじめ	な			か			
2 0								
3 0								
4 0								
		ねらい 1		ねらい 2			ねらい 3	まとめ

7 学習と指導

はじめ	1 学習のねらいと道すじ、学習の進め方を知り、学習の見通しを持つ。 ・ソフトバレーボールのルール・仕方 ・学習のねらいと道すじ ・場の使い方 ・用具の使い方 ・学習カードの使い方 2 グルーピングと役割分担をする。 ・男女混合 6～7 人×6 チーム 3 時間配分、準備の仕方について知る。 4 ルールやマナーについて確認する。	
	学習のねらいと活動	指導（○）と評価（☆）
なか	ねらい 1 ルールやチームの仲間になれ、協力して、今持っている力で、バレーボール型のゲームを楽しむ。。 1 協力し合って、場作りや用具の準備をする。 ・バトミントンコート を 3 面 2 ボールになれる練習をする。 ・円陣パス ・対人パス ・サーブ練習 3 めあての確認をする。 4 ゲームをする。① ・対戦相手は事前に決めておく。 ・審判はセルフジャッジで行う。 【主なルール】 はじめのルール ・15 点先取もしくは 6 分間を 1 セットとして 2 セット 1 ゲーム ・ラリーポイント制 ・サーブは 1 本 ・返球は 2 回から 4 回まで（1 回は反則） ・一人で連続（ドリブル）は反則 ・ローテーションあり ・コート内には 4 人 ・タッチネット、オーバーネットは相手のじゃまをした時のみ反則 5 ゲームについて話し合う。 6 ゲームをする②	☆協力して準備が進められているか【関心・意欲】 ○支柱を運ぶ際等の安全面を気をつける ○サーブ、レシーブ、トスなどの動きについて、必要に応じて指導する。 ☆めあてが適切かどうか 【思考】 ☆ゲームに積極的に参加しているか。【関心・意欲】 ○セルフジャッジをするので事前にルールを確認させる。 ☆ルールを理解してゲームをしているか【技能】 ☆ボールの扱いはどうか【技能】 ○勝敗の結果や技能面にかたよらないような話し合いの内容になるように指導する。 ・チームとしての反省だけでなく友達の頑張りにも目を向けた話し合いができるようにする。 ☆話し合い活動に積極的に参加しているか【関心・意欲】

- ・①とは違う相手と行う。

7 学習のまとめをする。

- ・ゲームや学習の反省をし、学習カードに記入する。
- ・友達の活躍を紹介する。

ねらい 2

チームにあった作戦を考えたり、練習したりしてチーム力を高め、力のあったチームに挑戦してゲームを楽しむ。

1 協力し合って、場作りや用具の準備をする。

2 めあての確認をする。

3 作戦にあった簡単な練習をする。

4 ゲームをする。（1試合目）

- ・審判はセルフジャッジで行う。

【主なルール】

- ・主なルールはねらい 1 に準ずる。

5 試合を振り返って作戦を立てたり、練習したりする。

6 ゲームをする。（2試合目）

- ・1試合目と同じ相手と行う。

※ 4 と同様

※ 5 と同様

☆協力し合って準備しているか【関心・意欲】

☆めあてが適切かどうか

【思考】

○2回目以降は前回の反省を元に練習メニューの工夫ができるように助言する。

☆めあてや作戦を意識した練習をしているか。【思考】

○試合中のお互いの言葉かけなど、マナー面についてもよく観察し、必要に応じて助言する。

- ・よいプレーを見つけて、お互いに認めあえるようにしていく。

○サーブ、レシーブなどの動きについて、必要に応じて指導する。

☆ゲームに積極的に参加しているか。【関心・意欲】

☆話し合いや練習したことを生かしているか。（チーム）【思考】

☆教え合いや励まし合い、応援ができる。【関心・意欲】

○チームとしての攻め方や守り方のことを考えた作戦も取り入れていく。

○作戦に無理がないか必要に応じて助言する。

☆話し合い活動に積極的に参加しているか【関心・意欲】

☆味方や相手のことを考えて作戦を立てることができる。【思考】

※ 4 と同様

☆作戦、話し合いを生かして

	 7 学習のまとめをする。 ・ゲームや学習の反省をし、学習カードに記入する。 ・友達の良いところを見つけて発表する。 ねらい3 まとめのトーナメント戦を楽しむ。 1 協力し合って、場作りや用具の準備をする。 2 めあての確認をする。 3 簡単な練習をする。 4 ゲームをする。 5 学習のまとめをする	ゲームをすることができる 【思考】 【技能】 ☆話し合い活動に積極的に参加しているか【関心・意欲】 ねらい2に準じる ○今までにうまくいった作戦をいかせるように声をかける
まとめ	1 学習の反省をする。 ・チームや個人のめあてがどのくらい達成できたか、学習カードにまとめる。 ・どんな作戦が成功したか、もっと楽しくするためにはどうしたらよいか、など学習を振り返る。	

8. 授業の視点

- ・友達同士のかかわり合い（試合中・話し合い時）はどうであったか。
- ・児童の実態に対してルール、流れは適切であったか。